

新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ  
オッフェンバック

# ホフマン物語

Les Contes d'Hoffmann

2023年3月15日(水)~3月21日(火・祝)

会場:新国立劇場オペラパレス 2023年1月8日(日)前売開始



2018年公演より

## “光の魔術師”アルローが夢幻に誘う 詩人ホフマンの3つのロマンティックな恋物語

官能的な名曲「ホフマンの舟歌」でおなじみのフランス・オペラ珠玉の傑作。オペレッタ『天国と地獄』で有名なオッフェンバックが作曲したオペラで、詩人ホフマンの恋の遍歴を幻想的に描きます。主人公ホフマンの「クラインザックの歌」、人形オランピアの華麗なコラトゥーラが光る「人形の歌～生垣に小鳥たちが」など、洒落で美しい音楽が満載です。

“光の魔術師”フィリップ・アルロー演出では、色鮮やかでスタイリッシュな舞台が次々に展開し、オムニバスのように紡がれる3つの恋物語の夢幻の世界へ誘います。物語には、死、芸術、性への欲求を象徴する女性たちが登場。ホフマンの破滅的な運命が“絶望”という名の黒い糸で紡がれていきます。

## 詩人ホフマンはテノール界の王子カパルボ！ 3人のマドンナとミューズに日本屈指の女性歌手陣

『ホフマン物語』は一晩で多彩な歌手の美声に浸ることのできる贅沢なオペラ。タイトルロールのホフマンには、大野和士指揮リヨン歌劇場(来日公演にも出演)以来、英国ロイヤルオペラ、ミンコフスキ指揮ブレーメン音楽祭などの同役で大成功を収めているホフマン歌いレオナルド・カパルボが登場。甘いマスクと美声で欧米のメディアも絶賛する“テノール界の新たな王子”が、恋と幻想に囚われる詩人を演じます。ホフマンを破滅に導く悪魔的存在の4役(リンドルフ、コペリウス、ミラクル博士、ダペルトゥット)には、世界トップバス・バリトン歌手のエギルス・シリンスが登場。ホフマンが恋するマドンナ3役を務める三者三様のソプラノには、安井陽子、木下美穂子、大隅智佳子と日本を代表するソプラノが出演します。ニクラウス/ミューズは、凛々しい舞台姿で大活躍中のメゾ小林由佳が出演します。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi\_y2525@nntt.jac.go.jp

## 「ホフマンの舟歌」でお馴染み、フランス・オペラ珠玉の傑作！

19世紀末、ベル・エポック時代のパリで、『天国と地獄』によりその名を世界に轟かせたオッフェンバック。『ホフマン物語』はオペレッタの創始者オッフェンバックの唯一のオペラにして、未完の遺作です。ロッシニーが「シャンゼリゼのモーツァルト」と評したオッフェンバックならではのメロディックで魅力的な音楽にあふれています。「ホフマンの舟歌」はオペラ通でなくともお馴染みの名曲です。

### ホフマンの孤独な死が生み出す永遠の命

オペラ『ホフマン物語』は、ドイツ・ロマン主義の作家 E.T.A. ホフマンの幻想的怪奇小説の3つの物語をモチーフに、ホフマン自身を主人公にした失恋物語。ホフマン独特の“現実と幻想の二重性”がそのままオペラの物語と渾然一体となった、珠玉の傑作です。ホフマンをめぐる3人の女性、恋物語を破滅に導く悪魔的な男、芸術の女神ミューズ…。決定版を欠き謎に満ちたこのオペラは、様々な解釈を招いてきました。



“光の魔術師”の異名を持つアルローの演出は、漆黒の舞台空間に、オランピアの黄緑、アントニアのブルーの照明、ジュリエッタの赤い衣裳に紫の照明と、蛍光色や照明を駆使して鮮やかな色彩を効果的に出現させ、ドラマの妖しい幻想性を浮き彫りにします。物語には、死、芸術、性への欲求というアルローのキーワードを象徴する女性たちが次々と登場。ホフマンの破滅的な運命が“絶望”という名の黒い糸で紡がれていき、夢と現実の狭間をさまようホフマンは、恋をした女たちに見守られながら息を引き取ります。

### “テノール界の新たな王子”(英 Opera Now 誌)カパルボ演じる破滅的な恋

タイトルロールのホフマンには、英国ロイヤルオペラ、マルコ・ミンコフスキ指揮ブレーメン音楽祭などでホフマン役を演じ大成功を収めているレオナルド・カパルボが登場！カパルボのホフマン役といえば、2014年の大野和士指揮リヨン歌劇場来日公演を記憶するファンも多いはず。恋と幻想に囚われ破滅する詩人ホフマンは、カパルボ最大の当たり役です。甘いマスクと美声で欧米のメディアも絶賛するテノール界の新たな王子が演じる破滅的な恋には、誰も引き込まれること間違いありません。



### 世界最高峰のバス・バリトン、シリンス登場 マドンナ3役とミューズに日本のトップ女声歌手陣が揃い踏み

ホフマンを破滅に導く悪魔的存在の4役(リンドルフ、コッペリウス、ミラクル博士、ダペルトゥット)には、世界トップバス・バリトン歌手のエギルス・シリンスが登場。『ホフマン物語』といえばホフマン恋する女性3役に登場する三者三様のソプラノが注目。人形のオランピアにコロラトゥーラの安井陽子、胸を病んだ娘アントニアにドラマティックな表現に定評ある木下美穂子、娼婦ジュリエッタに圧倒的美声を誇る大隅智佳子と、実力派ソプラノが出演します。ニクラウス／ミューズに出演するのは、確かな歌唱テクニックと凛々しい舞台姿で大活躍中のメゾ小林由佳。指揮はブレーメン・フィル音楽監督のマルコ・レトーニャが新国立劇場デビューを飾ります。

### <「ホフマン物語」あらすじ>



【第1幕(プロローグ)】歌劇場の隣の酒場。歌姫ステッラを待つホフマンは友人のニクラウス達に、3つの失恋物語を語り始める。

【第2幕】オランピアは科学者スパンツァーニが作った自動人形。人形師コッペリウスに売りつけられた不思議な眼鏡をかけると、その人形が生きているように見え、すっかり夢中になったホフマンは愛を告白。ホフマンと狂ったようにワルツを踊ったあげく、オランピアはコッペリウスに壊されてしまう。ホフマンはこの時初めて、彼女が人形だったことを知る。



【第3幕】楽器職人クレスペルの娘アントニア。名歌手だった母譲りの素養を持っていたが、胸を病み父親から歌うことを禁じられていた。しかし、悪魔のような医者ミラクルが亡き母親の亡霊を呼び寄せ、アントニアが歌うよう誘惑する。歌い続けるアントニアは、ついに死んでしまった。



【第4幕】ヴェネツィアの娼婦ジュリエッタ。彼女は魔術師ダペルトゥットからホフマンを誘惑して影を盗めと命じられていた。賭けですべてを失ったホフマンは魂と命と影をジュリエッタに渡してしまう。恋敵シュレーミルと決闘して勝利するが、当のジュリエッタは下僕と駆け落ちする。



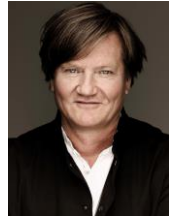
【第5幕(エピローグ)】酒場。数奇な愛の遍歴を語り終えたホフマンの元に歌姫ステッラが現れるが、上院議員リンドルフと腕を組んで立ち去る。酔いつぶれたホフマンは詩の女神ミューズの幻影を見る。

## <主要キャスト・スタッフプロフィール>

### 【指揮】マルコ・レトーニャ

Marko LETONJA

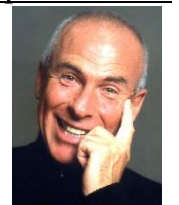
スロヴェニア出身。18/19シーズンからブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督。ウィーンで学び、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、バーゼル交響楽団およびバーゼル歌劇場の首席指揮者兼音楽監督、タスマニア・シンフォニー交響楽団芸術監督、ストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を歴任。ウィーン交響楽団、ミュンヘン・フィル、スイス・ロマン度管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団などを指揮。バーゼル歌劇場在任中は『タンホイザー』『椿姫』『魔弾の射手』『ボリス・ゴドゥノフ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮した。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場などで、『スピードの女王』『ホフマン物語』『ロメオとジュリエット』『ナブッコ』『椿姫』『蝶々夫人』『マクプロロス事件』『ワルキューレ』『神々の黄昏』『さまよえるオランダ人』などを指揮。ワーグナーに特に注力しており、『ニーベルングの指環』をスウェーデン王立歌劇場、リスボン・サンカルロ歌劇場で指揮したほか、ストラスブール・ラン歌劇場では『パルジファル』『ワルキューレ』『神々の黄昏』を指揮。最近ではブレーメン歌劇場『ファルスタッフ』『オテロ』などのほか、ストラスブール・ラン歌劇場でシュレーカー『宝を探す人』、19年批評家協会賞最優秀オペラ賞受賞作『ベアトリーチェ・チェンチ』（ヒナステラ作曲）などを指揮している。マイケル・スバイアーズ、ストラスブール・フィルと録音したCD「BariTenor」は2021年Time誌の選ぶクラシックCDベスト10に選出、2022年グラモフォン賞声楽賞を受賞した。新国立劇場初登場。



### 【演出・美術・照明】フィリップ・アルロー

Philippe ARLAUD

パリ生まれ。ストラスブール国立劇場演劇大学で演出、舞台美術、美術史を学ぶ一方で、ストラスブール大学医学部で精神医学を修め、外科医の資格も持つ。これまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、マリンスキー劇場、ブレゲンツ、スポレートなどの音楽祭で『ドン・ジョヴァンニ』『チエネレントラ』『トリスタンとイゾルデ』『影のない女』『ルサルカ』などの演出、舞台美術、照明を手がける。2002年から07年までパイロイト音楽祭で『タンホイザー』を演出。12年にはスロヴェニア国立マリボール劇場、香港オペラ、上海オペラの共同制作『カルメン』を手掛けている。新国立劇場では03年『ホフマン物語』の演出・美術・照明を担当。"光の魔術師"の異名にたがわぬ鮮烈な視覚効果で、作品の幻想性を浮き彫りにした。05年初演の『アンドレア・シェニエ』に続き、10/11シーズンオープニングに演出した『アラベッタ』でも観客を魅了している。



### 【ホフマン】レオナルド・カパルボ

Leonardo CAPALBO

アメリカ出身。ジュリアード音楽院に学び、マリリン・ホーンに師事。2004年にオペラ・ノースにデビュー後、英国ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、マドリッド王立歌劇場、グライントポーン音楽祭、リヨン歌劇場、トリノ王立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、ローマ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ジュネーヴ大劇場、バルセロナ・リセウ大劇場など、ヨーロッパやアメリカの劇場で活躍。ベルカント・オペラ（『ロベルト・デヴェリユール』タイトルロール、『ルチア』エドガルド、『愛の妙薬』ネモリーノなど）、ヴェルディ（『椿姫』アルフレード、『リゴレット』マントヴァ公爵、『仮面舞踏会』グスタフ三世、『ドン・カルロ』タイトルロールなど）、プッチーニ（『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『つばめ』ルジューロなど）のイタリア・オペラで高い評価を得ているほか、『キャンディード』タイトルロール、ブリテン『グロリアーナ』エセックス伯、『カルメン』ドン・ホセなどヘレパトリーを広げている。最近ではフランダース・オペラ『ドン・カルロ』タイトルロール、ベルリン・コーミッシェ・オーパー『リゴレット』マントヴァ公爵、ストラスブール・ラン歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、アン・デア・ウィーン劇場『フリー』ハーゲンバッハなどに出演。今シーズンはフランダース・オペラ、ルクセンブルク歌劇場で『マハゴニー市の興亡』ジム・マホニーに出演したほか、グランジパーク・オペラ『ウェルテル』タイトルロールに出演予定。ホフマンは大野和土指揮のリヨン歌劇場での出演以来、英国ロイヤルオペラ、マルコ・ミンコフスキ指揮ブレーメン音楽祭などで大成功を収めている当たり役である。新国立劇場初登場。



### 【ニクラウス／ミューズ】小林由佳

KOBAYASHI Yuka

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。二期会『ナクソス島のアリアドネ』作曲家役での端正な舞台姿と高い歌唱力が評価され、その後『蝶々夫人』スズキ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『イドメネオ』イダマンテ、『ホフマン物語』ミューズ／ニクラウス、『ばらの騎士』オクタヴィアンなどに出演。2019年にはサントリーホール サマーフェスティバルで大野和土指揮『リトゥン・オン・スキン』（日本初演）天使Ⅱ・マリア役を務める。その他、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『リゴレット』マッダレーナ、『カルメン』タイトルロール、『ブリーカー街の聖女』デジデーリア、『パルジファル』小姓、などを演じている。新国立劇場では『沈黙』少年、『魔笛』侍女Ⅱ、『アイーダ』巫女、『ルチア』アリーサ、『椿姫』フローラ、『夏の夜の夢』ヒポリタ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ケート／スズキ、鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』ケルビーノに出演している。22年4月には『ばらの騎士』オクタヴィアン役に出演し絶賛された。さくらがわ応援大使（茨城県桜川市）。二期会会員。



**【オランピア】安井陽子**

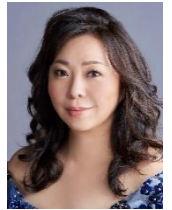
YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラ研修所第43期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてウィーンに留学、ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。クラゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。同国フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、プレゲンツ音楽祭およびザンクト・ベルテン音楽祭でオフエンバック『青ひげ』小姓、ロザリンデに出演し高い評価を受ける。国内では2008年東京二期会『ナクス島のアリアドネ』ツェルビネッタで本格デビュー。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』顕子、『ばらの騎士』ゾフィー、『アラベッラ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『ホフマン物語』オランピア、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなど数多く出演。コンサートでも、ヘンデル『メサイア』、ハイドン『天地創造』、『四季』、モーツァルト『レクイエム』、ベートーヴェン「第九」、メンデルスゾーン『エリア』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、フォーレ『レクイエム』、マーラー「交響曲第4番」、「千人の交響曲」、ゴリホフ『3つの歌—ソプラノと管弦楽のための』（日本初演）などのソリストとして幅広く活躍している。二期会会員。

**【アントニア】木下美穂子**

KINOSHITA Mihoko

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。第70回日本音楽コンクール第1位、第16回新日鉄音楽賞、2007年リチア・アルパネーゼ プッチーニ国際声楽コンクール第1位、第16回出光音楽賞等多数受賞。小澤征爾指揮『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ以降、東京二期会『椿姫』ヴィオレッタ、『ローエン格林』エルザ、佐渡裕プロデュースオペラ『カルメン』ミカエラ、ロームシアター京都および東京二期会『フィデリオ』レオノーレ、札幌・神奈川・大分『アイダ』タイトルロール等多数主演。殊に『蝶々夫人』タイトルロールでは、ロンドン・ロイヤルアルバートホール、ピサ・ヴェルディ劇場、ソフィア国立歌劇場、シガン・デトロイト歌劇場、バンクーバー・オペラ等に出演、確固たる国際的評価を築いている。コンサート・ソリストとしても全国各地のオーケストラと共演、好評を博している。新国立劇場では高校生のためのオペラ鑑賞教室『椿姫』ヴィオレッタ、同『ラ・ボエーム』ミミ、同『トスカ』タイトルロール、同『蝶々夫人』タイトルロール、小劇場オペラ『外套』ジョルジュッタ、「ニューイヤール・オペラパレガラ」などに出演している。CD「イル・クオーレ」リリース。二期会会員。

**【ジュリエッタ】大隅智佳子**

OHSUMI Chikako

東京藝術大学音楽学部声楽科首席卒業。同大学院修士課程、博士後期課程修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース第7期修了。学部在学中に安宅賞、卒業時に第13回松田トシ賞、アカンサス音楽賞受賞。皇居内桃華楽堂における宮内庁主催御前演奏会に出演。横浜市民オペラ『カルメン』ミカエラ役でオペラデビュー。2007年シャルパンティエ『ルイズ』タイトルロールに出演。東京二期会『エウゲニ・オネーギン』（コンヴィチュニー演出）タチアーナの成功で新境地を拓き、11年東京二期会『サロメ』タイトルロール、14年東京二期会『イドメネオ』エレットラでも好評を博す。日生劇場の音楽ドラマ『チャイコフスキー』では、淡路恵子、長谷川初範等の俳優陣と共演。同劇場では、開場50周年『メデア』（日本初演／第67回文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞作品）タイトルロールにも出演し絶賛を博した。コンサートにおいても、ヴェルディ「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、マーラー「千人の交響曲」などのソリストとしても活躍している。新国立劇場では20/21シーズン開幕公演『夏の夜の夢』ヘレナに出演後、21年『フィガロの結婚』伯爵夫人、『イオランタ』タイトルロールに出演し絶賛された。二期会会員。

**【リンドルフ／コッペリウス／ミラクル博士／ダペルトウット】エギルス・シリンス**

Egils SILINS

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。プレゲンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グラインドボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。「ニーベルングの指環」ヴォータン、さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナル、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは70以上に及ぶ。近年では、ベルリン州立歌劇場『影のない女』バラク、ハンブルク州立歌劇場『パルジファル』アムフォルタス、ラトヴィア国立歌劇場『さまよえるオランダ人』タイトルロール、ビルバオ・オペラ『フィデリオ』ドン・フェルランド、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、ウィーン国立歌劇場『ローエン格林』テルラムント、パイロイト音楽祭『ローエン格林』テルラムント、『ラインの黄金』ヴォータンなどに出演している。新国立劇場では14年『パルジファル』アムフォルタスに出演した。



新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ  
ジャック・オフエンバック

ホフマン物語

Jacques OFFENBACH / Les Contes d'Hoffmann  
全5幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2023年3月15日(水)18:30／17日(金)14:00／19日(日)14:00／21日(火・祝)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:24,200円・A:19,800円・B:13,200円・C:7,700円・D:4,400円・Z:1,650円

【前売開始】2023年1月8日(日)

※予定上演時間 3時間40分

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

指揮 .....	マルコ・レトーニャ	ホフマン .....	レオナルド・カパルボ
Conductor	Marko LETONJA	Hoffmann	Leonardo CAPALBO
演出・美術・照明 .....	フィリップ・アルロー	ニクラウス／ミューズ .....	小林由佳
Production, Set and Lighting Design	Philippe ARLAUD	Nicklausse, La Muse	KOBAYASHI Yuka
衣裳 .....	アンドレア・ウーマン	オランピア .....	安井陽子
Costume Design	Andrea UHMANN	Olympia	YASUI Yoko
振付 .....	上田 遙	アントニア .....	木下美穂子
Choreographer	UEDA Haruka	Antonia	KINOSHITA Mihoko
		ジュリエッタ .....	大隅智佳子
		Giulietta	OHSUMI Chikako
		リンドルフ／コッペリウス／ミラクル博士／ダベルトゥット .....	エギルス・シリンス
		Lindorf, Coppélius, Miracle, Dapertutto	Egils SILINS
		アンドレ／コシュニエ／フランツ／ピティキナッチョ .....	青地英幸
		Andrès, Cochenille, Frantz, Pitichinaccio	AOCHI Hideyuki
		ルーテル／クレスペル .....	伊藤貴之
		Luther, Crespel	ITO Takayuki
		ヘルマン .....	安東玄人
		Hermann	ANDO Gento
		ナタナエル .....	村上敏明
		Nathanael	MURAKAMI Toshiaki
		スパランツァーニ .....	晴 雅彦
		Spalanzani	HARE Masahiko
		シュレーミル .....	須藤慎吾
		Schlemil	SUDO Shingo
		アントニアの母の声／ステッラ .....	谷口睦美
		La voix de la mère, Stella	TANIGUCHI Mutsumi

合唱指揮 .....	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

芸術監督 .....	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/lescontesdhoffmann/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)  
新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

\* Z席 1,650円：公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

\* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。\*未就学児入場不可。

\* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い  
[https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23\\_017576.html](https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html)

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

新国立劇場オペラ『ホフマン物語』2018年公演より 撮影:寺司正彦